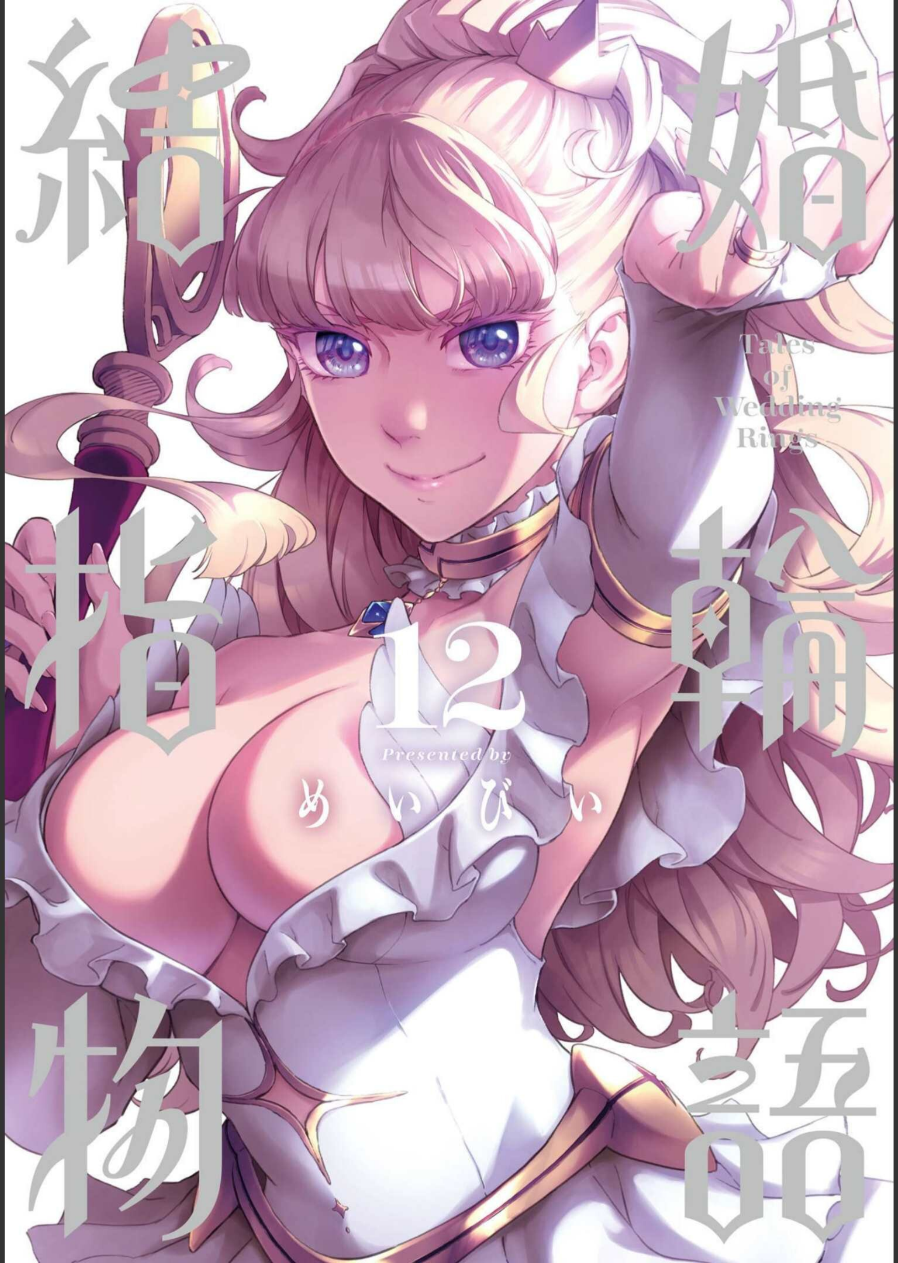


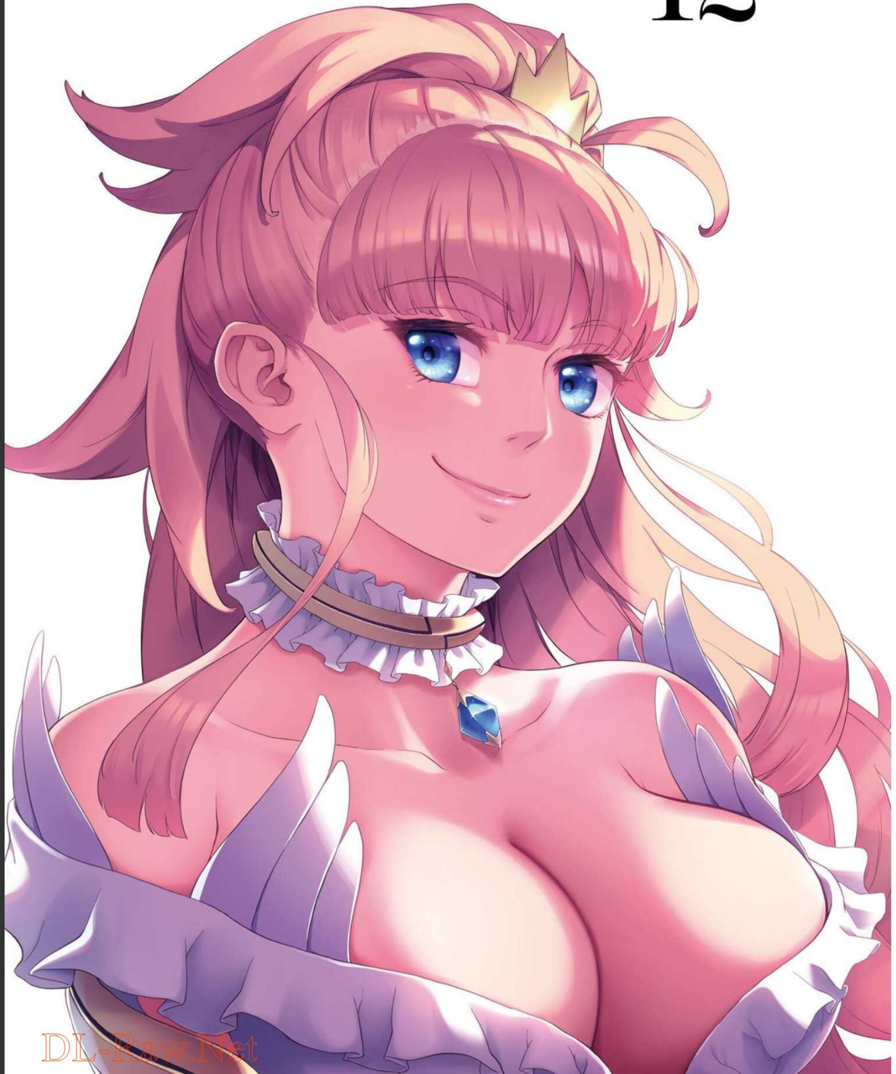
DL-Raw.Net

結婚指輪物語

Tales of Wedding Rings

めいびい

12



結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


第63話



Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

12

Contents

Presented by
MAYBE


かつての
指輪王は
そうだったかも
知れない…
だけど
俺たちは違う
共に
戦うんだ!!


面白いことを
言う……
ならば…


これでもそう言えるか
…ああ


俺はみんなを
信じているからな
戯けたことを…





なるほど…
それほど遠くへ跳ばす力は無いわけか
深淵王の力も底が見えたな

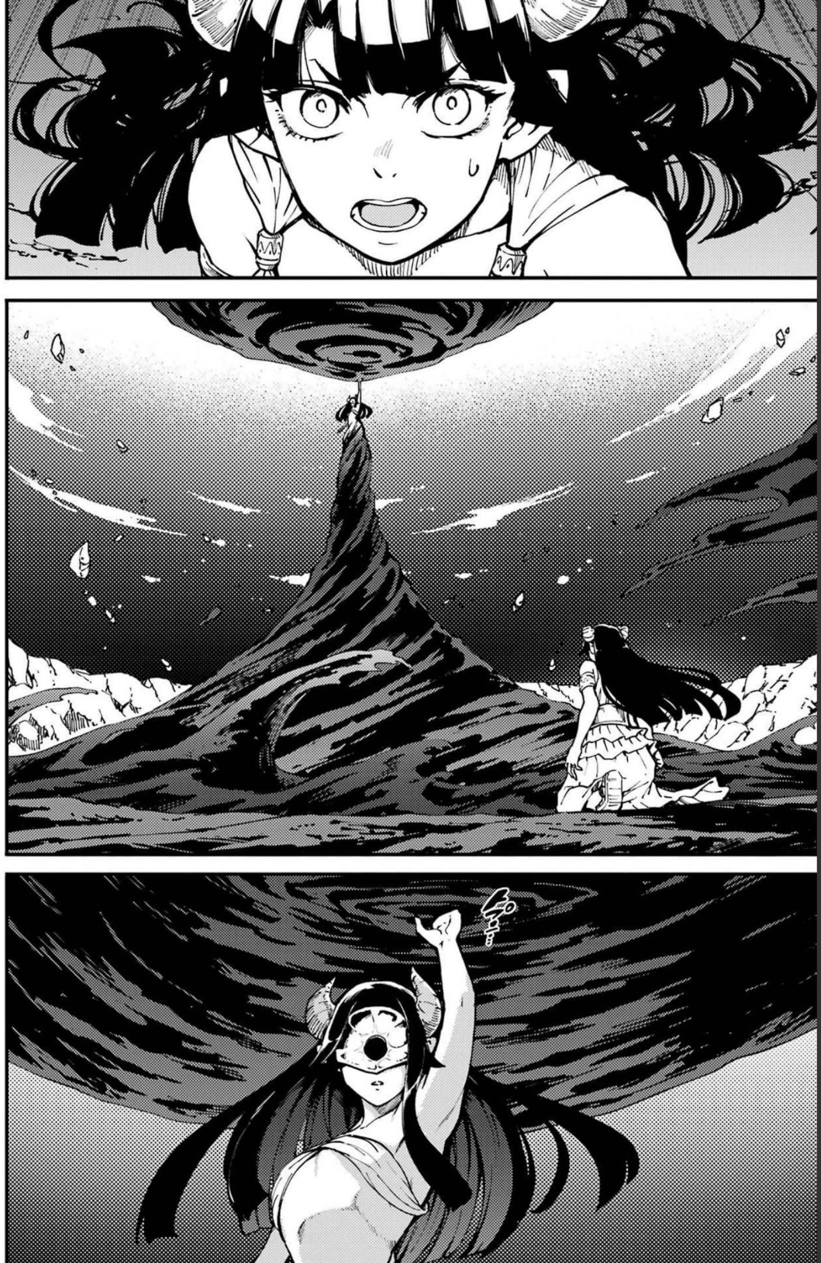

炎の剣…!?
古の猫人はこれほどのことが…
ふん…
言葉は要らないか……


行くぞ!!!


長老……
ペリドート様……
…では
無いですよね
!!


わたしは…
強くなったんです
…負けない!!

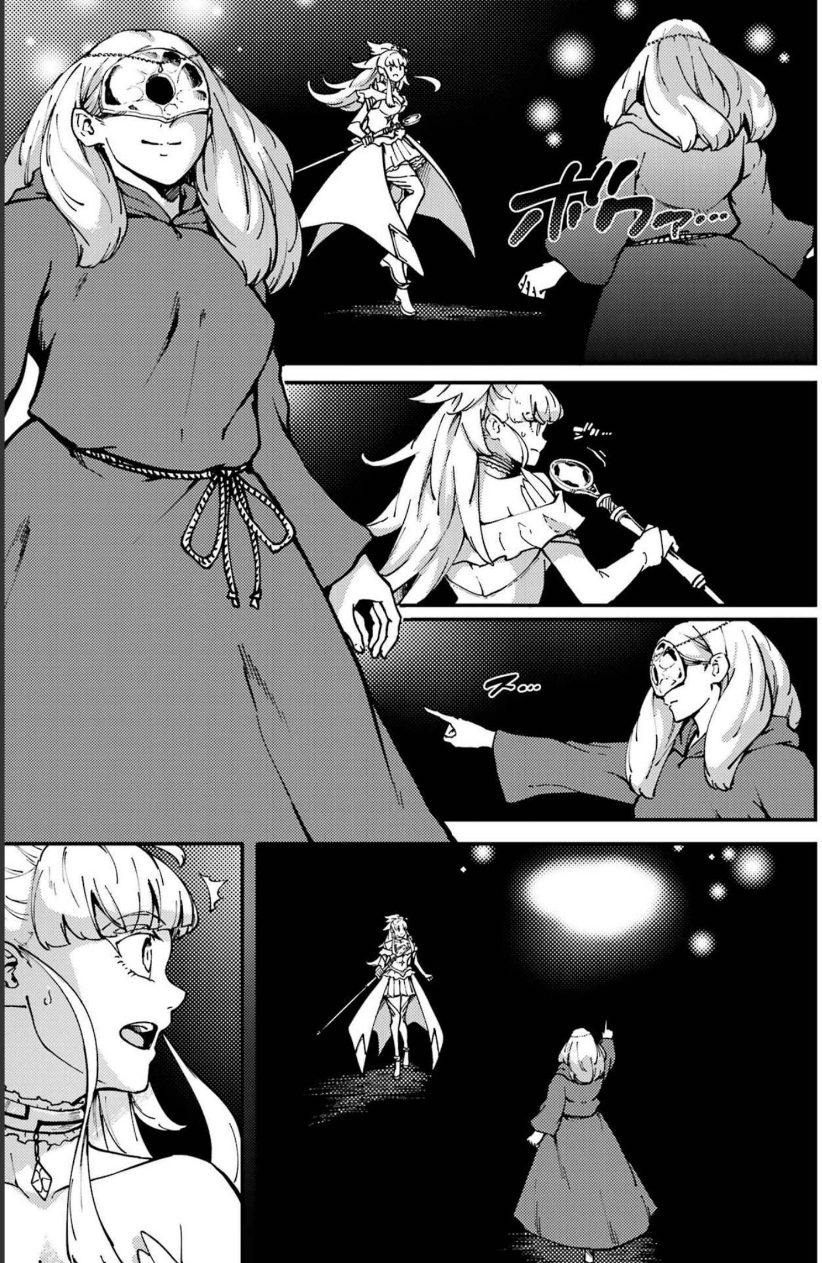





えらいこっちゃ……
妾たちと同じ力を使うのか…!?


あなたは…
アンバルの……
潰せ

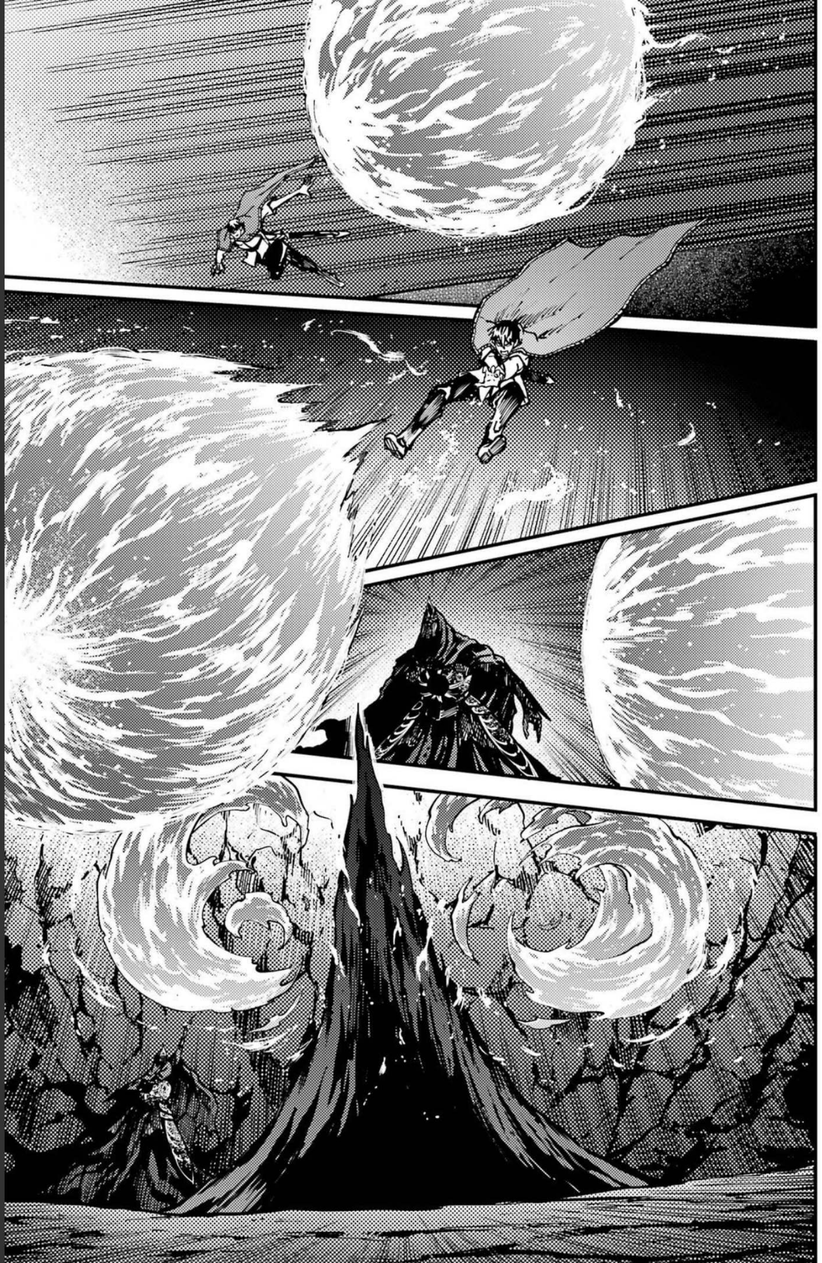



ボウァ…


ボワァ…
いいえ
それは不可能です
私たちは
深淵王様に
作られた幻
彼の力
あるかぎり
在り続けます
私たち…
指輪の姫に
出来ること
それは
見守ることだけ
それは
定められたこと


ハルト!!
ここから
出して!
邪魔
するのなら…












まともに近づくことすら出来ない…
前はうまく不意討ち出来ただけってことか




己の力のみで
ここまで抗えたことは
褒めてやろう
だが直に
それも底をつく


それは指輪の姫とて同じことだ
人は窮地に追い込まれたとき
その本性を表す


生きて帰ってヒメとまたえっちなことをするんだ…
おつかれさまハルト♡
頑張れオレ!!



結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


これが武名を馳せた
猫人の行く末か
弱くなった
ものだ…
だがお前には
素質がある
古の剣術
その深奥を
知りたくは
ないか…？


冷静さを失わぬ
良い目だ
その目をしている限り
強さは必ず手に入る
深淵と手を結べ…
軛無き力を
己の物とせよ
……


そんな力は要らない…
強さは自分だけのものでは無い
誰かのためにあるものだ！
それをわたしは…教えてもらった！




ネフリティス…我々が戦う必要は無いだろう
お前のことはよく知っているぞ
お前が欲しているのは知恵…知識だ
ならばこの世界にあって知りえぬ知識…深淵の知が欲しくはないか？
深淵はこの世界を包み込むもの…この世界の全てを深淵は知っている
お前の求める全ての知を与えてくれるぞ…

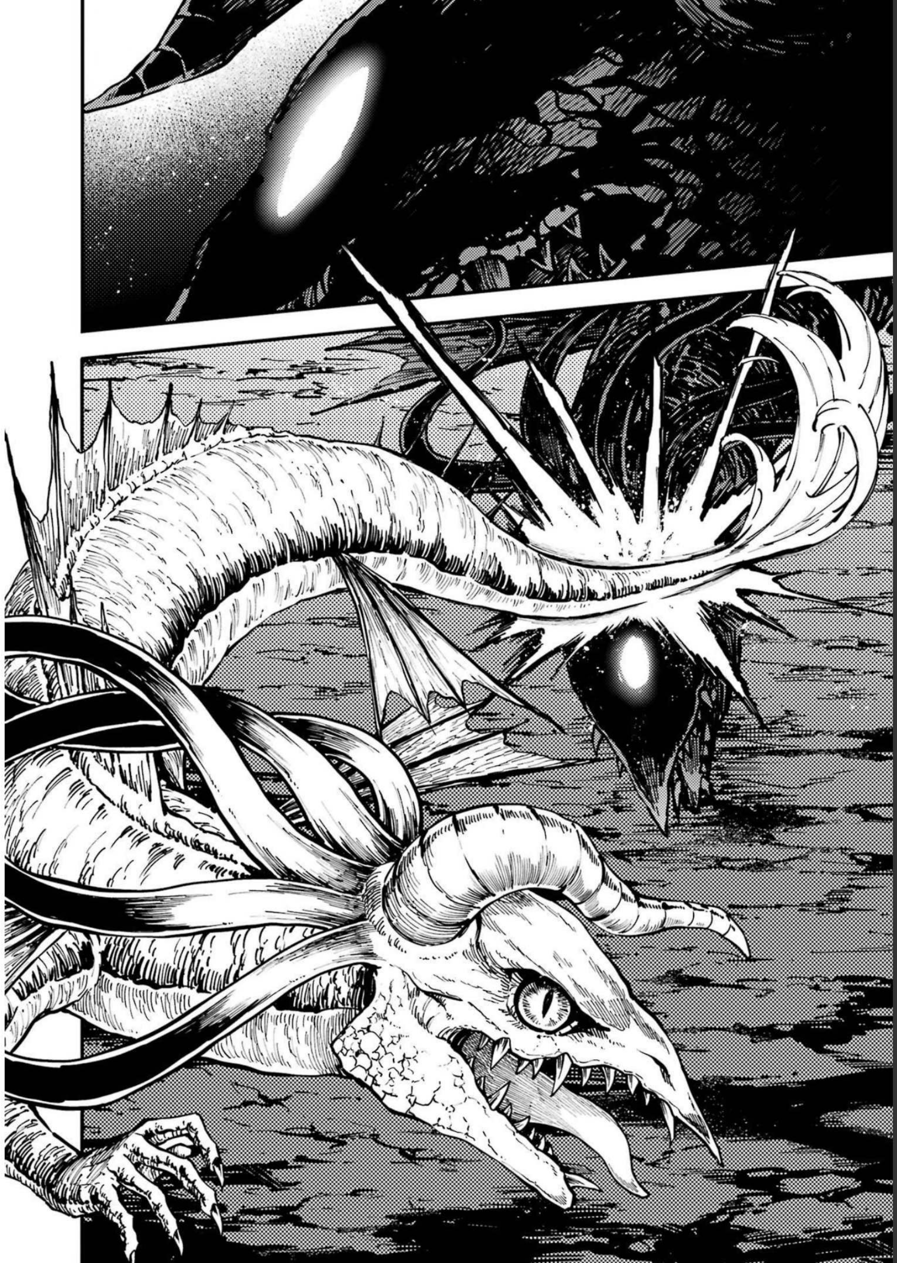

サトウ様と共に旅をしてわたしは知りました
本を読むだけでは決して手に入らないものがあることを…
それは経験です
わたしは自分の目で見たい
自分で触れて確かめたい
守られ与えられるだけなのはもうやめたんです




フン…
あのアホに準備させておいて正解なのじゃ


今一度考えよ…
薄まれど竜の血はそなたの中にもあろう
下賤の者のために竜人の高き血を流す必要があろうか
そうもいかんのじゃ
妾がおらんとあやつは何も出来んからの
面倒を見てやるのも貴人の務め……
それにああ見えてあやつは…
なかなかに良い奴じゃ






格好の悪いところは
見せられんからの




ドワーフの産み出したる子よ
我等ドワーフを想うのならば深淵王様に降りなさい
深淵の力あらばドワーフの再興など容易いこと
わたしも深淵王様に蘇らせてもらったのですから
それは嘘
あなたはドワーフじゃない
あなたは…すでに遠くへ行ってしまった


アンバルは
ドワーフが大事
でも何が一番かは…
アンバルが決める!!!




〝己の力〟
のみじゃないさ…
ヨロ…
あんたには…
わからないんだな…


湧き出てくる…
この力が!!!
感じるんだ
みんなを
……
…折れぬか


ならば…
続けるだけだ
!?
なんだ…これ……
!!
もしかして…
これが全部……




クソッ…
指輪を生み出したのか…!?
いや…今そんなこと気にしてる場合じゃない!
こんなことが出来るってことはやっぱりこいつは…
なんとか隙を見つけるんだ!
一撃で良い…
懐に入り込めさえすれば




しまっ…


ザザザッ


マルスさん!!!
行け
サトウくん!
この隙を逃すな!!


…おう!
はああああああッ








ハルト！
タタタ…

やったのか!?


人間……
なのか!?


あれはかつての我——
指輪王と呼ばれた男だ
!!
指輪の力で倒されたはずの深淵王が此度は指輪を使うのだ
お前も薄々感づいていただろう
そりゃ…そんな気はしてたけど…
……考えたくなかった


世界を守るために戦った人が
こんなことになるなんてさ
深淵王と共に封ぜられ混ざり飲まれたのだ…
我が身ながら哀れなことだ


新たな指輪王よ…
お前はかつて指輪王だった私に匹敵する力……
あるいはそれ以上のものを持っている
かつての私のように…
深淵のみならば打ち倒せるだけの力を持っているだろう
だがその力の根源
他者との繋がりは揺らぐものだ
!!
お前の内にある心それもまた揺らぐ


誰しも心の中に
虚無を持っている
お前にも
その心はあるはずだ
深淵に飲まれることは
無かったが
完全に消すことも
出来なかったようだ
己の中の深淵に落ちよ
そんな…


サトウくん
聞いてはならん!!
もう遅い


サトウくん!!


いやいや人間っていうにはデかすぎるだろ!!
3Mくらいはある……
ズゥ～ン…
きっと昔の人は大きかったんだね……
違うぞ…

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS




私たち指輪の姫は
ただ見ていることしか出来ない
無力よね……
本当に


ガッ
あなたはどうして消えないの？
他のお姫様たちの影は消えてしまったのに
あなただけは……
違うの？


わたしは…
わたしだけは
最後まで…
あなたと共にありますから
本当に…哀れな人
どれだけたくさんの愛を求めても
最後に待っているのは……孤独だもの


なんだ…
ここ……


底がある…
宇宙……って
わけじゃないよな
じゃあ…
あの光は
なんだ?
中に何か
見える…?


あれは…
深淵王の城!?
これこそが
深淵
世界の
始まりにして
還るべき母


全ての光は世界……
お前が来た世界も
この無数の粒の一つにすぎない
アーヌルスと同じ儚い泡だ


アーヌルスはこの深淵に偶然生まれた
いずれ水泡がはじけ消えるように
深淵に帰すべき存在なのだ
光の力はその摂理に抗う……
歪みだ



タタタ…
おい
マルス!
どうなっ
とる…
サトウは!?
サトウくん
は……
あの中に
飲み込まれた…
!!



では……
深淵王は…?
深淵王も
同じく…
追いかけるように
消えてしもうた……


破壊して
助ける
待って!!
落ち
着いて!!
ガクガク!! ガクガク
アンバルの指輪王が
恐れていたことが……
アンバルが
めずらしく
うろたえているぞ!
…!
これは
どえらいこと
なのじゃ…
かつての
指輪王…
彼は深淵王を倒し
共に深淵へと
封ぜられた…
エルフの長老
ペリドート殿から
そう聞いておるじゃろう
サトウも……
深淵の中に
閉じ込められて
しまったというのか!?
この度は
深淵王の手によって
じゃがな……


これが…
わしの信じた
伝説の結末だと
いうのか……
アラバスタ
……?
皆……
落ち着いて
聞いて欲しい…


今ならば
深淵王を封印出来るやもしれん
!!!
深淵王にとってもこの手は恐らく賭け……
今を逃せば……


待て！アラバスタ
そんなことをすればサトウは…
わかっておる…
このまま封印をすれば
サトウくんはかつての指輪王と同じ運命を辿る（たど）ことになる……




え…？
は……？
なんだ…!?
いきなり……
倒した…
のか!?
？


え……
なんで……


どうして……
選んでくれなかったの…
何を言ってる?
俺は選んだ……
ヒメを選んだんだ!
だって何かを選ぶということは
他の全てを選ばないということでしょう?
あ…
あ……


どうしてわたしを選んでくれなかったの？
どうしてわたしを選んでくれなかったの？
どうしてわたしを選んでくれなかったの？
どうしてわたしを選んでくれなかったの？
どうして……


お前も私と同じだ
選択を恨まれ力を恐れられ
裏切りと孤独な死だけが待っている


この暗闇はお前の深淵だ
光を選ぶことで落ちる影
それをお前は恐れている


全てを取ろうとも一つを選ぼうとも
闇を生むことを知っているからだ
いかような答えを出そうとも…
なぜ世界は指輪を生んだ
なぜ指輪を持つ者に答えの無い選択を迫る
なぜ指輪を持つ者を苦しめる
この世界は偶然生まれた泡
所詮は歪な幻にすぎない
なればこそ歪な問いを迫るのだ


かつての指輪王は深淵王と共に封ぜられ
その身はひとつとなった…
いまサトウくんが対峙しておるのは
深淵を纏うかつての指輪王…！
!!
過去と同じではない…
もはや指輪の力だけでは……
…知っておったのか
アラバスタ


世界は深淵に抗いながらも
深淵への帰郷を望んでいる……
さぁ問いも選択も無い
永遠に揺蕩う母なる深淵へと還れ


全てを知る者などおらん
しかしそれでも抗わねば……
だからこそ…わしはサトウくんに……
覚悟はせねばならんか……
このまま
あやつが戻らなければ……


この音は…！
どうした!? グラナート!!
はっ

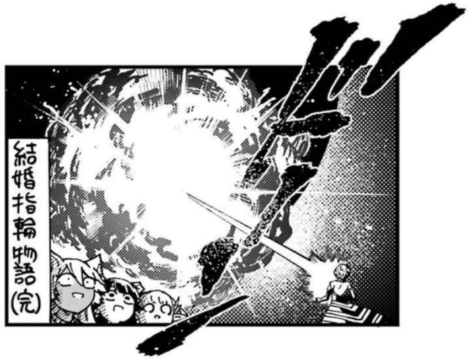

行け!!!
一気呵成に深淵王の軍勢を攻めよ!!!
深淵王の力を削ぎ指輪王を援護するのだ!!!
帝国軍…!
ロムカもニーダキッタもマーサも…
みんな来ているぞ!!
そうだ…わたしたちが諦めてどうする!
サトウを信じてここまで来たんだ
絆の力が指輪の力だというのなら
わたしたちは最後まで……!
行くぞみんな!!!
なんじゃと!?


こんな所でじっとしていても仕方ない
サトウは今も深淵王と戦っている
だったらわたしたちも戦うんだ！
そうですね…
待っているだけでは何も動きませんから
はっ
ネフリティス!?
まったく仕方ないのう…
直感で動くことは好まんのじゃが


そうじゃ……
そのとおりじゃ…
わしは伝説に惑わされ
わしの信じたサトウくんを見失うところじゃった…

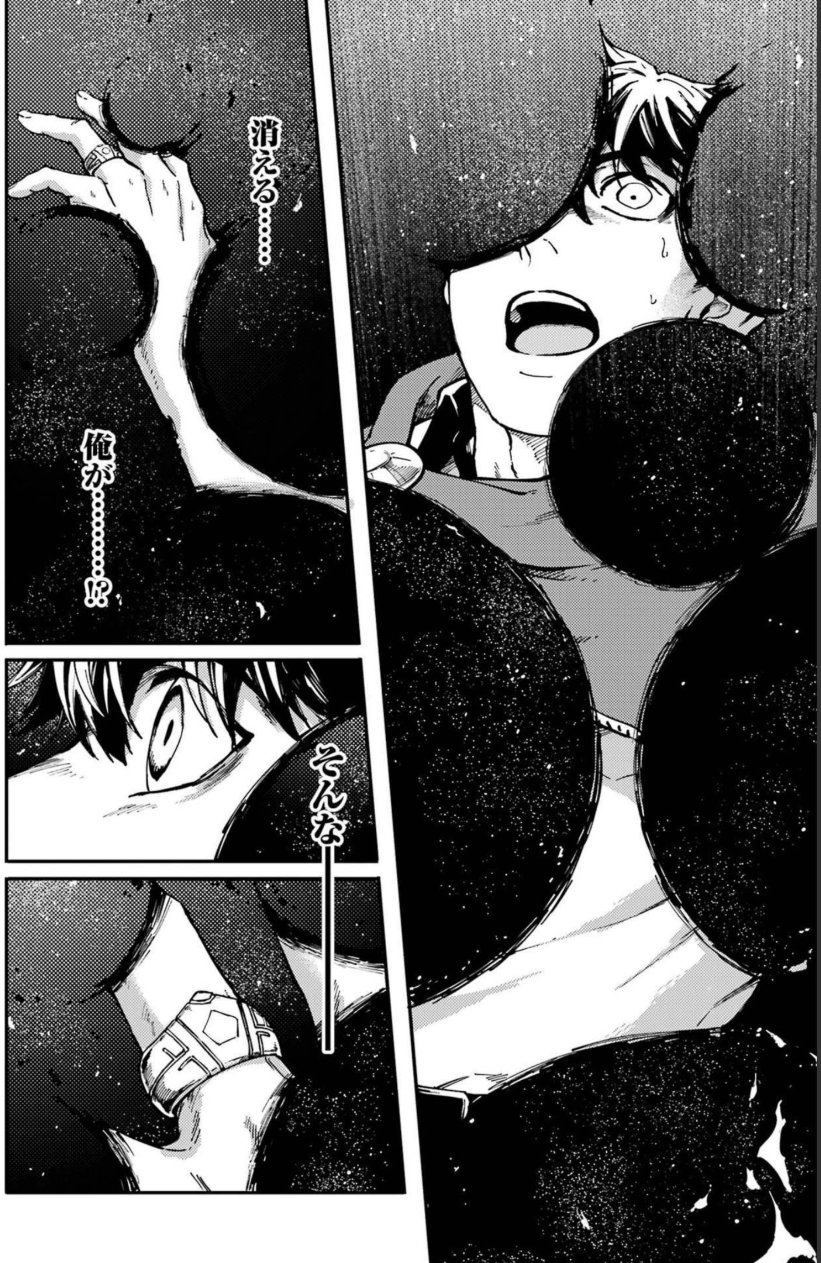

これが
これこそがサトウくんの力…
サトウくんのもたらした力じゃ…


指輪の力は
原初の理…
万物を貫き
強く
結ばれておる
皆の思いは
きっと
サトウくんに
繋がっておるぞ
おじい
ちゃん…
あたし
たちも！
…うむ！


結婚指輪物語(完)



結婚指輪物語
TALES OF WEDDING RINGS


消える……
俺が……!?
そんな――



第66話


行くよ
アンタ!!
!!
ム…
ザッ

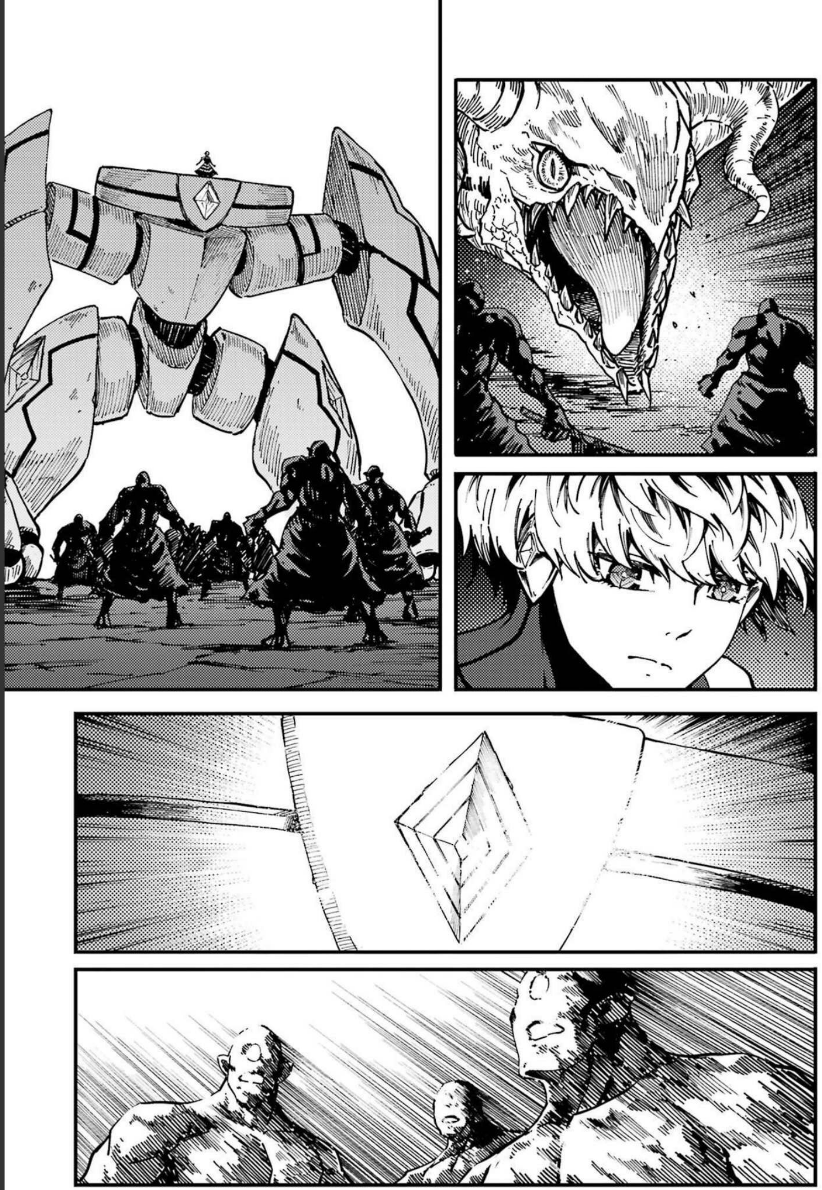

アンタ!!


やるようになったじゃないか…
グラナート!
あなたたちのおかげだ…!
父上!!
母上!!


うぉおおおおおおお
ネフネフネフ ネフリリリティ スゥウウウウウ!!!
ネフリティスは どこだあああ!??
ネフリティスを 傷つけようとする者は この私が許さんぞおおお!!!


あの… お兄さま…… わたしは ここです……
ジェードめ… やはりかなり 溜まっているな…
この戦いが終われば ようやく落ち着いて 故郷に帰ることが出来る
早く兄上を 安心させてやれ
…はい!

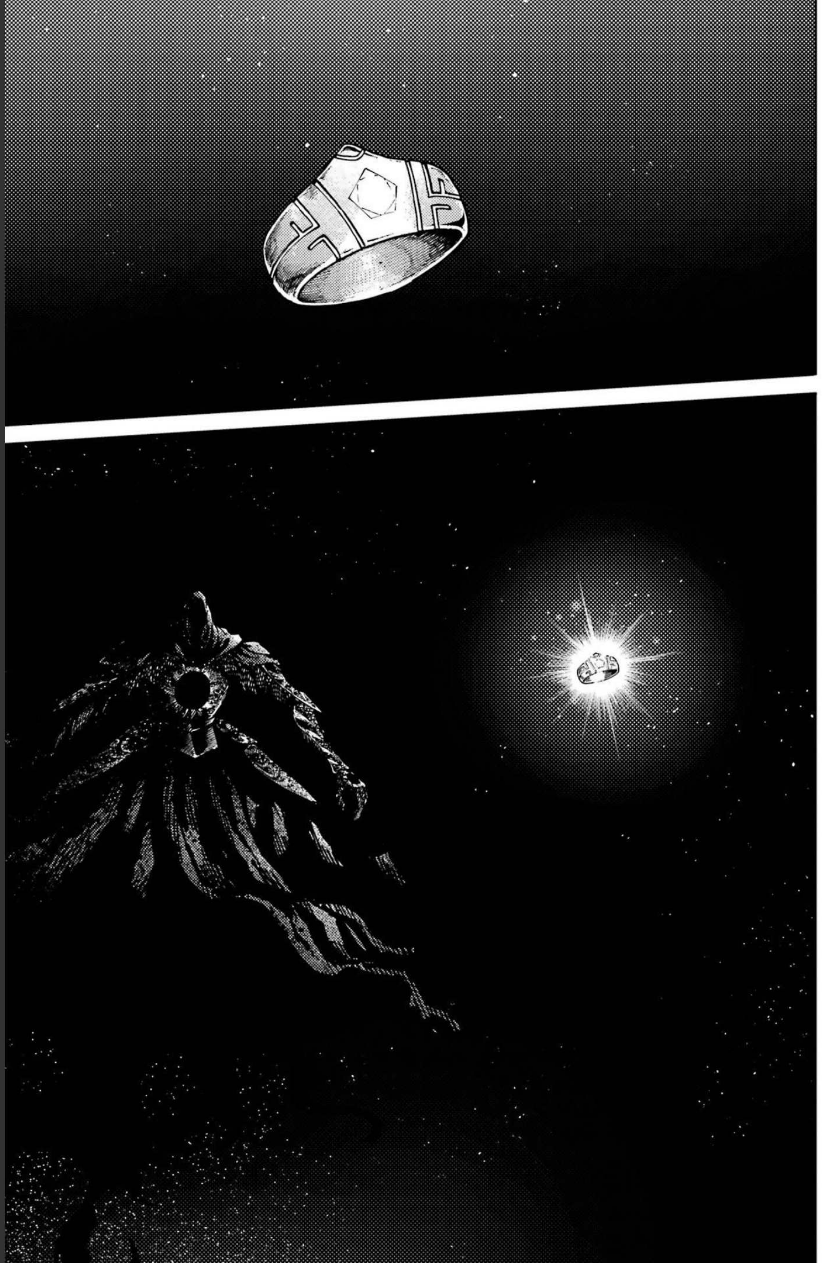

おお…
なんという戦力だ！
これが竜人の姫とドワーフの姫の力なのか…！
サフィール様
ご立派になられましたな……






凄まじいものだ…
あれ程の力を持ちながら滅び去ったのか……


サトウ…
サトウ様！
サトウ…！
指輪王！




彼は深淵に飲まれてしまったわ…
完全に……
私たち指輪の姫の声は
戦場にいる彼には届かなかった…
いつも遠くからただ見届けるだけ
私たちの宿命は何も変わらない




無駄よ
彼は深淵に還ったもう戻らない
そして…指輪王がいなくなった今
この世界もいずれ深淵に還るわ
大丈夫…まだ指輪の力は感じる
わたしたちは繋がってる
ハルトはまだ完全に消えてない！

わたしはハルトを信じてる


駄目よ…
そんなことをすれば…
あなたも一緒に深淵に飲まれてしまうわ!!
それでもわたしは行く!!
どうなるかは分からない…
それでも……

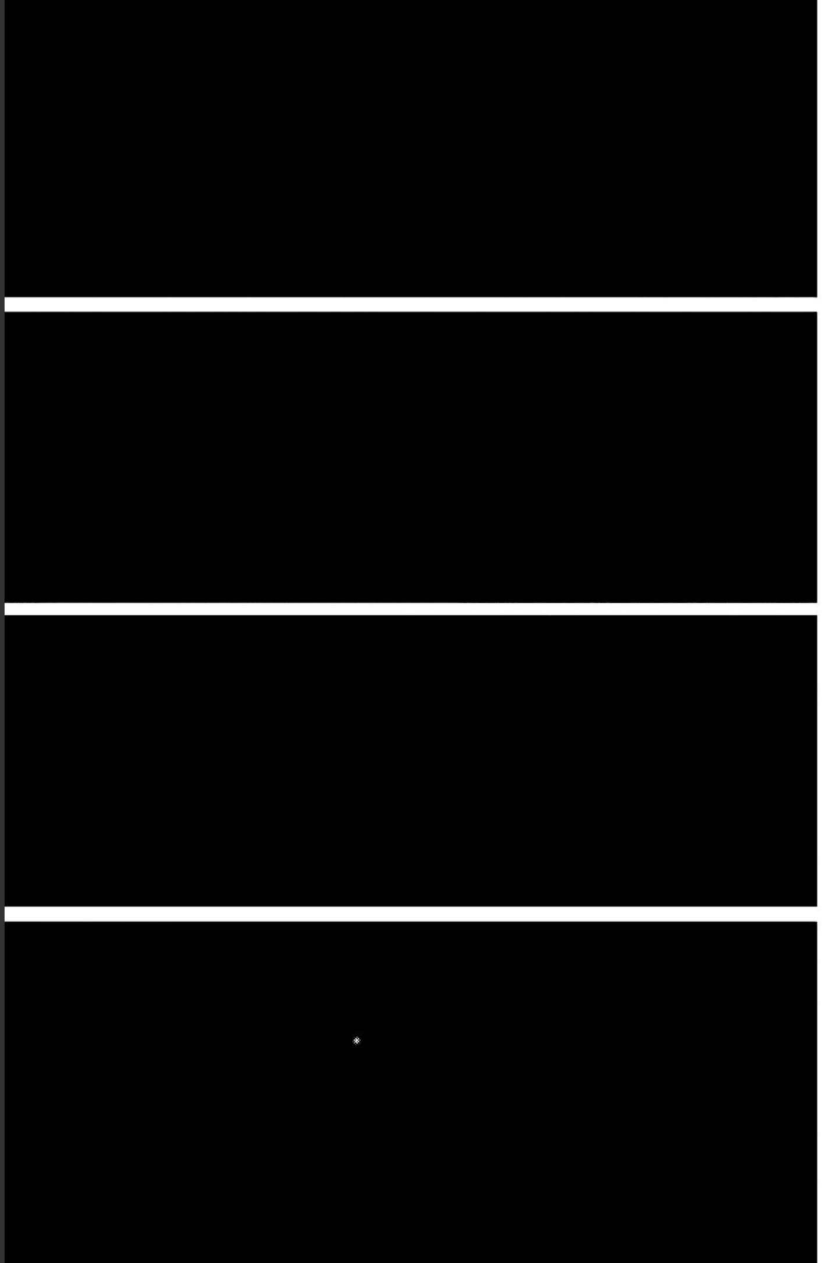

力の流れを辿れば…
手を伸ばせばまだ間に合う……!!


ハルトが…
あの時飛び込んで来てくれたから
今のわたしがある
だから…
今度はわたしが

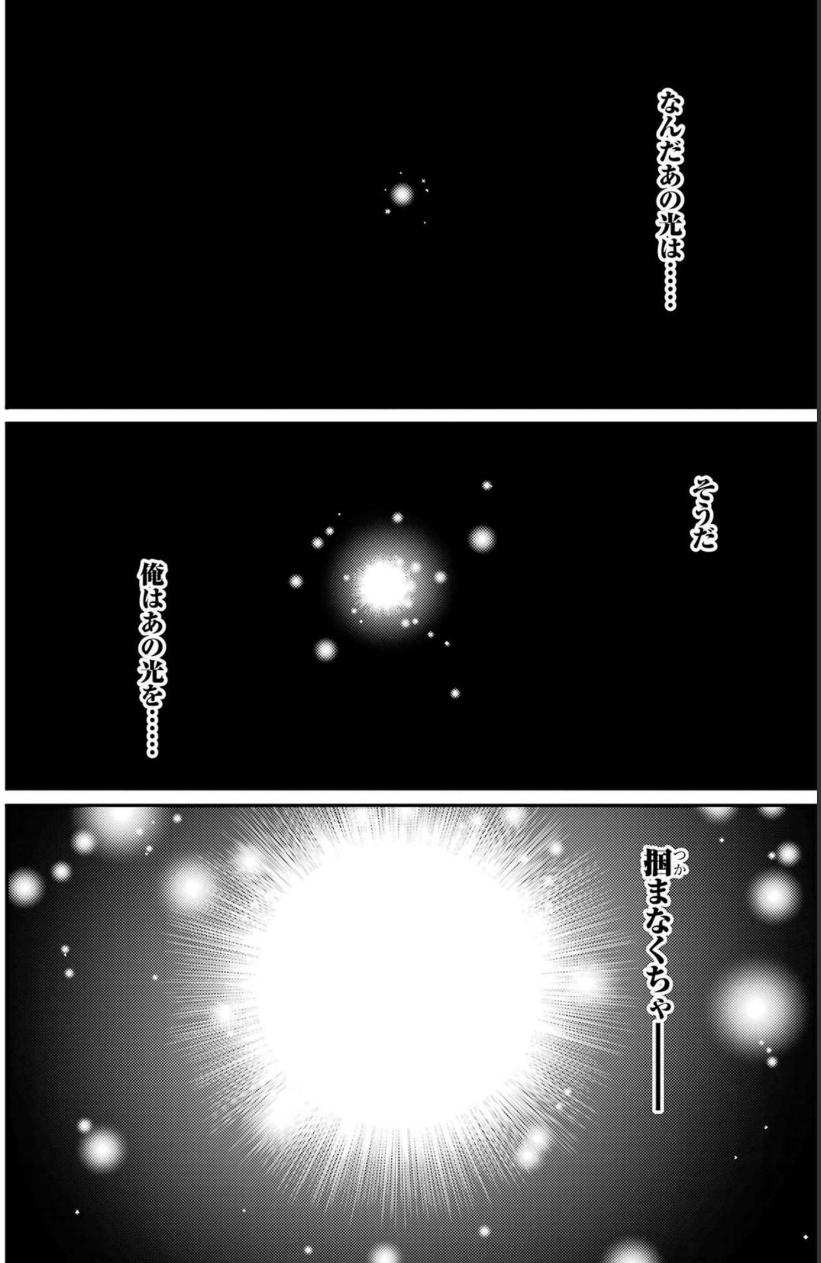



私たちは
何も出来なかった…
変わっていく
あの人を
見ているだけ
求められることに
応えるだけ
怖かった…
変わっていく
あの人が
あの…っ
もう十分だ
お前からの力は
これ以上必要ない


ご武運を…
わたしは…
わたしだけは
最後まで…
あなたと共に
ありますから
あの時
あと一歩踏み出すことが
出来たのなら…
もう少し手を伸ばすことが
出来たのなら…
彼が力に溺れる
怪物になったのは
きっと私たちのせい
彼の孤独を知りながら
強くあって欲しいあまり認めず
突き放したから
私たちは
力の無い存在だもの
でも　あなたたちは…　飛び込めるのね




カラーンッ
カラーンッ


なんだあの光は……
そうだ
俺はあの光を……
掴(つか)まなくちゃ———



ネフリティスへの愛が高じて、ついに分身したジェード







結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS





…きちゃった


間違いなく深淵に還ったはずだ…
なぜ未だここに在る
ハルトは負けないよ
わたしがここにいるから！


指輪の姫ごときが…
深淵に自ら踏み入るとは愚かな……
力を与えるだけの存在が…
この世の摂理を知らぬ故の無謀か
共に深淵へと還れ




!!
ハルトが教えてくれた…
なんとかなるって信じて動かなきゃ
未来は来てくれない


ひとりじゃ無理かもだけど…
ハルトとならなんだって出来る
だから…
ハルト
力を貸して


ヒメ!?





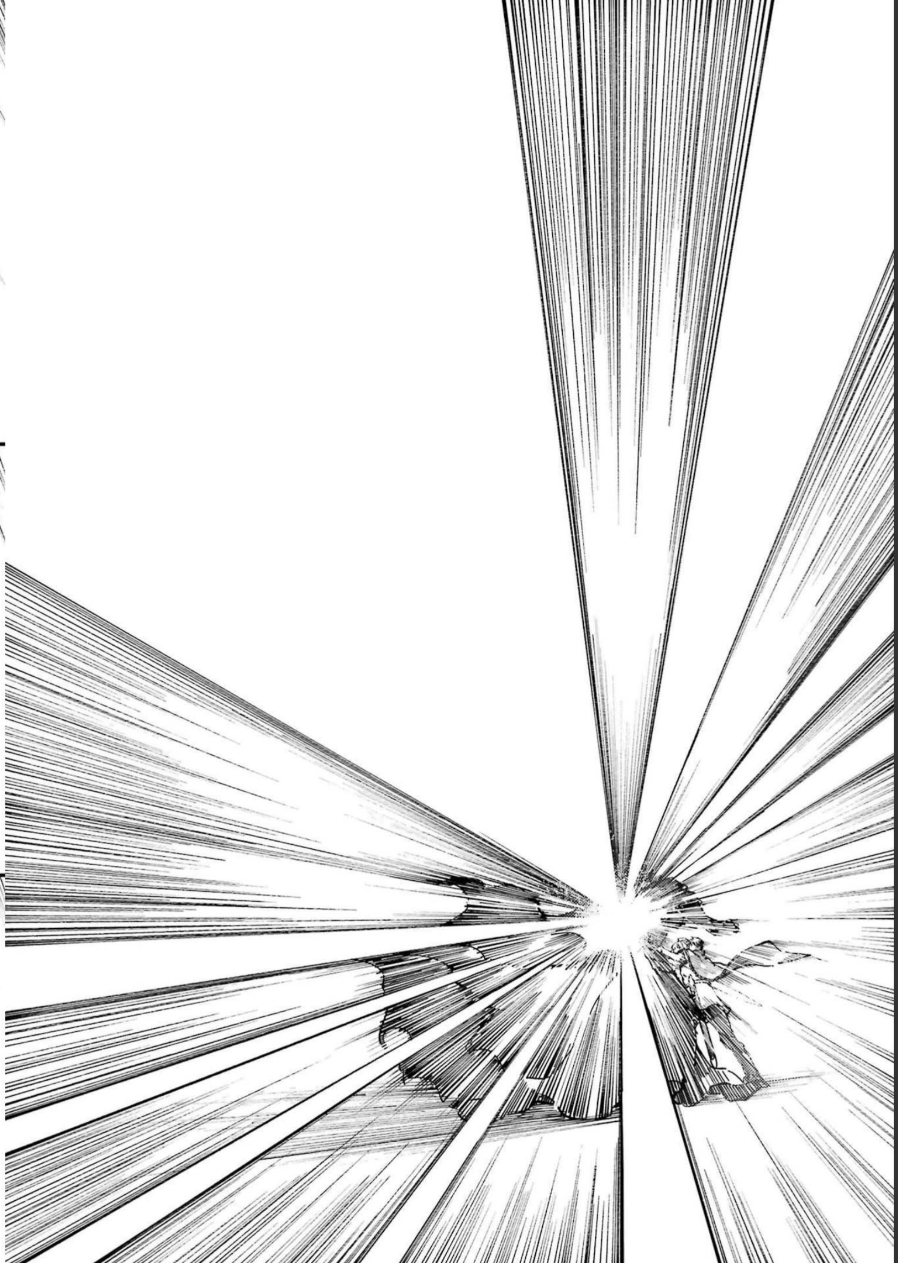

今だ…ヒメ！
うん！
行こう…ハルト！


信じるんだ!!!
進むために!!!




ヒメ!!
ハルト!!


ス…




ああ…
私は…
敗れるのか…

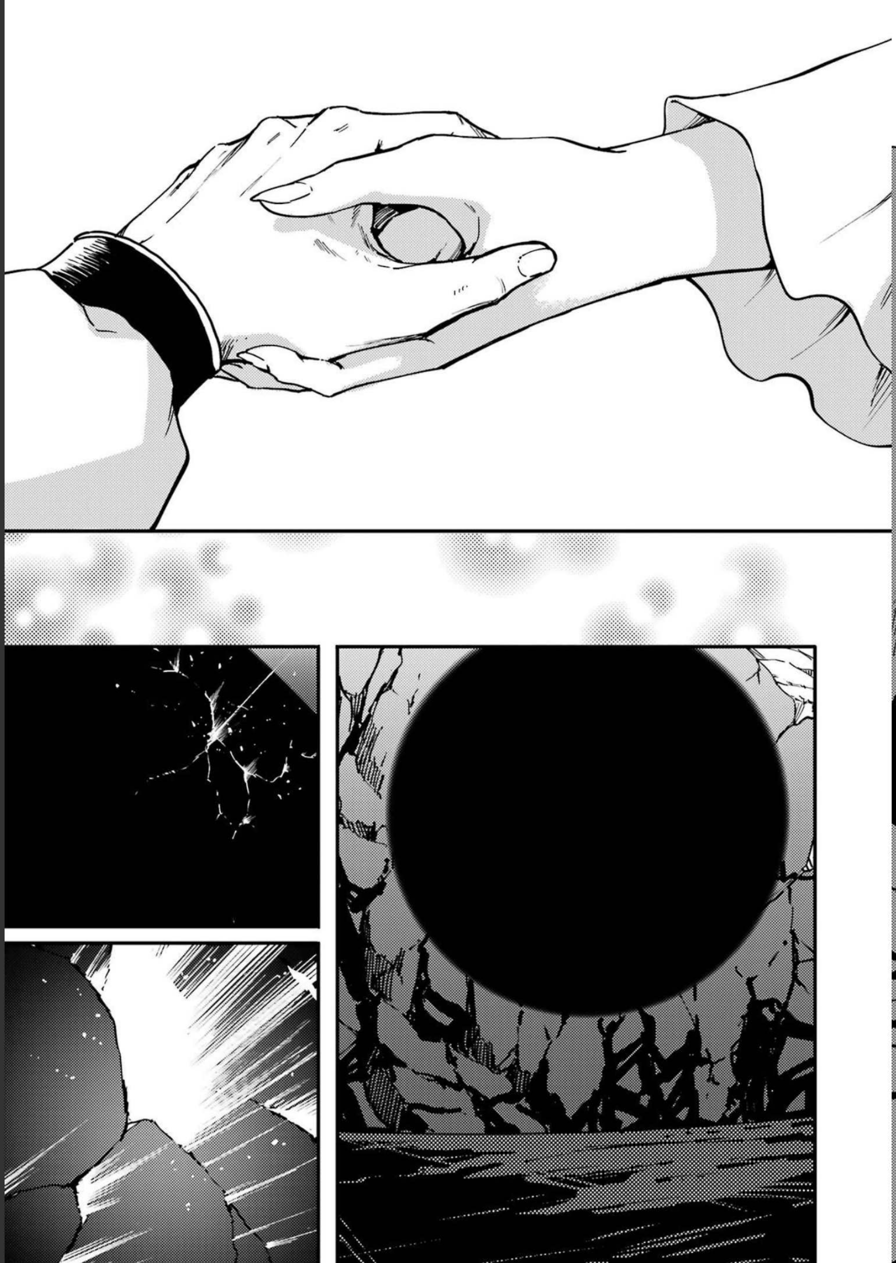

深淵を討ち果たし
指輪の力を
もってしても…
なぜ…
私は……
光の力の本質は
破邪ではない
産み育み
無を満たす力
我等がついに
信じられなかった
力だ


彼等は
それを得た
若く
ひたむきな彼等が
我等の
成しえなかった事を
成したのだ
深淵に囚われる時は
終わった
満ちていく…光が…
私の…虚空に………




なぜ…
お前が
ここにいる…
カッコ
カッコ…
わたしは…
あなたが
作り出した幻
だけど
わたしは
あなたの心が
生み出した
光でもあります


あなたは深淵に消えなくてもいい
わたしが 世界があなたを覚えています
あなた自身の光があなたを許し救うのです
猛々しく悲しいひと
さぁ行きましょう




結婚指輪物語12 おわり


ちゅーだけでそんな強くなっちゃダメだろ…
ちゅっちゅ♡
イラ イラ
もっとえっちなコトしろよ……みんなも期待しているぞ……！

アーヌルス博物誌

巨人兵器がイダノカンに存在したという説がある．失われた事物への興味というものは底深く，ドワーフ文明を専門とする古代イダノカン研究は人気のある学問分野のひとつであるが研究家の数多さゆえにその玉石混淆ぶりはすさまじく，根拠が不確かであったり妄想といって差し支えのない説が飛び交う分野でもある．そのうちでもっとも際だって空想的で，しかし興味深いものが伝説巨人兵器実在説である．

説によると，神話の戦いの末期，ドワーフによって城をも越えるほどの超巨大な人の姿を模した兵器がつくられていたという．その巨体には数限りない武装を施されており，投石機のごとく拳を飛ばし，雨あられと矢を放ち，胸部の魔動機関から熱線を放つというまさに動く要塞のごとくであったとされる．深淵王との最終決戦に備えて作られたそれは，しかしついに完成することなく深淵王の封印という決着を迎えてしまった．ドワーフは決戦兵器開発のために方々から借金をしていたために破産に追い込まれ，戦後の混乱にまぎれて遁走したのだ，とする説だ．ドワーフの滅亡に関する突拍子もない説に見られるかも知れないが，実は根拠がまったく無いわけでは無い．発見されている魔動兵士は時代が下るほど大型化する傾向が見られており，深淵王との戦いが激化していったことを物語っている．つまり，大型化した魔動兵士の究極形こそが城をも越える超巨大人型兵器である，ということらしいのだ．

だが，それほど巨大な兵器が存在したのなら，途方もなく巨大な工房が必要なはずである．いまのところイダノカンのどこを探してもそのような遺跡は見つかっておらず，巨大な魔動兵士を地上へ運び出す手間を考えれば迷宮隧道のなかにあるとも思えない．数多の研究者と冒険者達の調査が，巨人兵器説の誤りを裏付けてしまっているのである．ただ夢物語といってしまえばそれまでではあるものの，見上げるほどの巨大な魔動兵士が地上を闊歩する様は思い描くだけで心躍るものである．



伝説巨兵イダノカイザー図解

結婚指輪物語12 あとがきページ



今巻は最初から最後まで深淵王との戦いでしたね。
１巻丸々使ってお終い！と言いたい所ですがもう少し続きます。
正真正銘、最後の戦いなので仕方ありませんね…。長い…。

メインのお話は次の巻で纏めるつもりなのですが、
エピローグ的なのを少し長くやりたいので
次の巻でこの漫画自体がお終いということにはならなさそうです。
せっかくならやり残すことの無いようにしたいですしね！

それではまた次巻もお楽しみに！

めいびい





アーヌルス博物誌

ニーダキッタは今でこそ魔動車のみを領土とする狭い国であるが，かつては北部ヴァーンナーをのぞむ大平原を支配する大国であったとされる．もっとも古い時代，猫人達は乾燥した広大な土地で狩猟と農耕を生業としていた．不安定な暮らしから村々の争いは絶えず，その中から武勇を誇る戦士が幾人も生まれ，後の傭兵集団としての素養が養われていったと考えられている．指輪王の時代までにはひとつの国家として纏まり，その力を誇示するかのような巨大な城が築かれたという．

いまは伝説に語られるのみとなってしまったニーダキッタ城だが，その実在を示唆する文献も残されている．険しき大山壁カオガミカを越え，ヴァーンナーの荒れ野を進み，砂塵の果てに巨大な黒い建築物を見たという若き賢者アラバスタの手記はあまりに有名なところであろう．発行部数数万部を誇る大ベストセラーであり，全帝国書店にて絶賛発売中である．未読であれば是非読んでいただきたい．ほかにもいくらか目撃談は知られている．曰く，雷雨の中に一瞬，湖畔の崖にそびえ立つまがまがしい悪魔のような城の姿が見えた．曰く，ある男が山中にて迷った果てにたどり着き，城を見た証拠にしようと食器を持ち帰ったところ，その男の家系は大変栄えた．などなど，眉唾物の怪しげな話も多い．

猫人の伝承によればニーダキッタ城は火の国の土と砂を焼き固めた煉瓦でつくられており，赤く輝くそれは美しい姿だったとされる．しかし，不思議なことに近代の目撃談によれば，その城は黒く禍々しい姿をしているとされる．封ぜられた深淵王の呪いが城を蝕んでいると考える学者もいるが，指輪王の封印は固く，たやすく破られるなどとは考えられない．おそらくその真相は単純なものである．長い年月に渡って放置されていた城が荒れ果て，薄汚れ黒ずんで見えているというだけであろう．人が住まない家はすぐに傷むと言われるように，恐らく城内は数百年ものの湿気とカビと埃に支配されているはずである．ヴァーンナー再開拓の折には，徹底した換気と清掃が必須であろう．

城の本来の所有者たる猫人たちはというと失われた領地や城への執着はまったくない様子である．世界を旅する魔動車の気ままな生活が猫人の気質と合っているのか，長い歴史の中でヴァーンナーへ向かった者はごくわずかしかいないと言う．伝説の名城は深淵の領域にその姿を隠しながら，今も新たな城主を待ちわびている．

EXTRA CONTENTS ‼ カバー折り返し



めいびい
MAYBE

PS5でPS4のゲームをやっている…

※コミックス発売時のカバー折り返しを収録

デジタル版　Ver.1.00

BG COMICS

ビッグガンガンコミックス

結婚指輪物語⑫

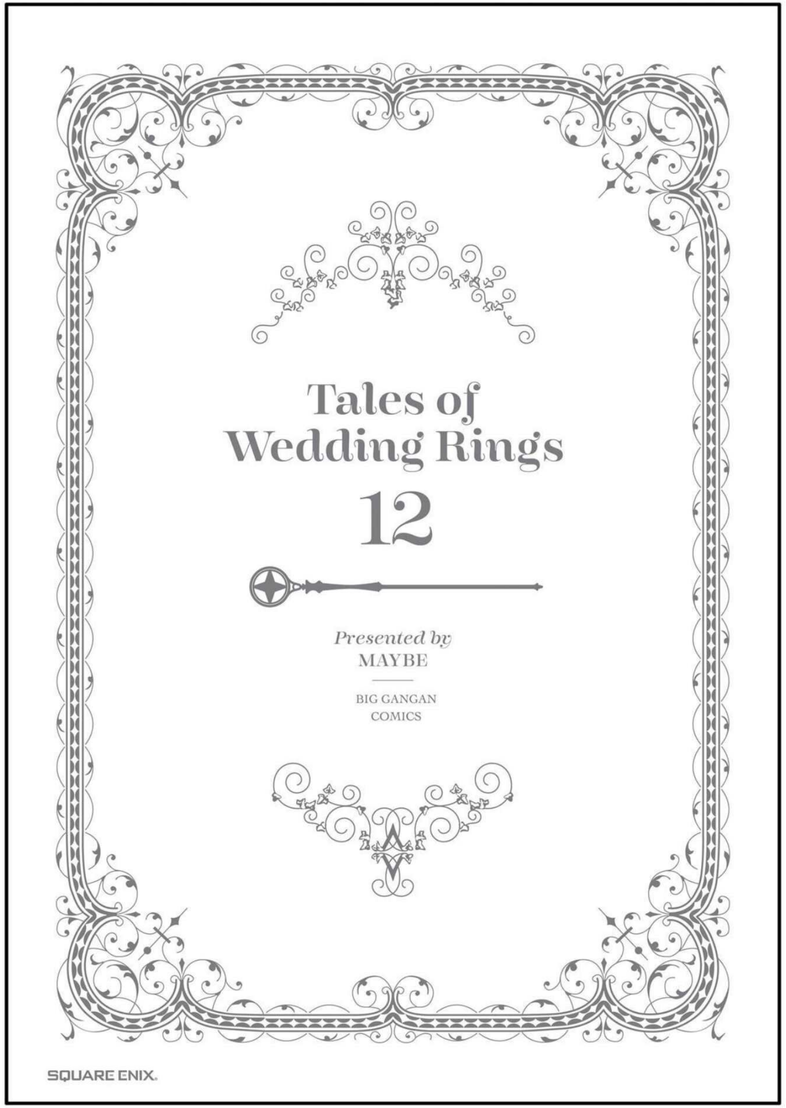
著者／めいびい

2022年 3 月25日　Ver.1.00発行

発行所　株式会社スクウェア･エニックス

担当編集　小泉浩志
装幀　阿閉高尚(atd)
初出／月刊ビッグガンガン2021 Vol.09、Vol.11～2022 Vol.03

EXTRA CONTENTS ¦¦ 表紙 裏



 ※コミックス発売時の表紙 裏を収録

EXTRA CONTENTS ¦¦ 表紙 表



※コミックス発売時の表紙 表を収録

EXTRA CONTENTS ¦¦ カバー裏

Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

ついに深淵王と対峙したサトウ一行。

初代の指輪の姫たちが立ちはだかるが、

ヒメたちも凛々しく立ち向かう。

しかしサトウは深淵王の闇に呑まれてしまい……!?

世界と愛の命運をかけた決戦の第12巻!!

12

Presented by

MAYBE

※コミックス発売時のカバー裏を収録